

○森賀 文月\* 瀬渡 章子\*\* 田中 智子\*\* 梶木 典子\* 小谷 摩耶\*<sup>3</sup>

(\*奈良女大・院、\*\*奈良女大、\*<sup>3</sup>トステム(株))

【目的】近年、地域においては、子どもの自発的な遊び・遊び場の減少、地域の教育力の低下等が問題となっており、大人が積極的に子どもの遊びに関わり、地域全体で子育てに取り組めるような仕掛けが必要とされている。本研究では、地域の大人による冒険遊び場づくりの一事例を取り上げ、その運営方法や活動実態とともに、子どもの利用実態・保護者の遊び場にたいするニーズを明らかにし、今後の地域における子どもの遊び場のあり方についての示唆を得ることを目的とする。

【方法】大阪府箕面市における冒険遊び場を調査対象地とし、遊び場運営者に対する聞き取り調査、遊び場における活動観察調査、遊びに来ている子どもの保護者への質問紙調査を行った。調査期間は2000年10月～11月。

【結果】①運営は、主に小学生以下の子どもを持つ母親を中心に、毎週金曜日と毎月第2土・日曜日に街区公園で行われており、公民館活動等、他の公共施設との関連がみられた。②大人の関わり方の形態は、参加・見守り・放任等様々であったが、子どもの年齢や運営への参加の程度による差違がみられた。③子どもは普段できない遊びや体験を好み、特に「物づくり」においては大変人気があり、保護者による評価も高かった。④遊び場への評価は、親同士の交流や親も楽しめる遊びへの評価が高く、大人にとっても魅力的な場所となっていることがうかがわれた。